



飯道山

～ 山岳信仰の拠点・甲賀忍者発祥の地 ～

飯道山 冬景色 題字 富峰山

飯道山観光協会の取り組みと今後の展望

飯道山観光協会 会長 福本 正治

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。
今年度の事業計画に沿った活動状況を振り返りました。

- 1 飯道山登山者に安全・安心・楽しくの取り組みとして、4月から8回にわたり他の団体と連携し、登山道等の草刈り・点検と著しい浸食部8カ所の整備等を行いました。
- 2 広報活動では、「飯道山広報誌」の2回発行や既存のホームページを改訂し、地域内外での当協会の認知度の向上に努めました。
- 3 地域の歴史文化の掘り起こしでは、他の団体と連携し、登山者等に飯道神社、木食応其上人定窟等や関連史跡等を案内するためのガイド養成セミナーを開催しました。
- 4 杣川夏まつり、小学校の課外授業において関係諸団体と連携し、活動しました。また、本年も地域密着活動の取り組みとして、2回の小学校の草刈りを行いました。
青少年の郷土愛への支援も併せて、昨年以上の参加予定者による第2回飯道山清掃登山を計画しましたが、降雨中止となった。
多くの参加予定者より、青少年や地域の皆様の環境美化への必要性を感じていただくことが出来ました。
- 5 JRふれあい飯道山ハイキングの実施については、他の地域の登山者との交流や観光資源の魅力の推進を図るために関係諸団体と連携しながら、地域の公共交通を利用して実施予定であったが、降雨中止となったのは残念であった。



飯道神社案内

*私達は古来より山岳信仰が栄えた霊山である飯道山及びその周辺史跡の歴史的価値を認識し、登山者の増加や環境美化について、地域住民に理解を深めるための活動を行っています。飯道山観光協会の活動にご支援ご理解を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

ボランティア スタッフの 募集



飯道山は豊かな自然や歴史的建造物などが点在し、県内外の方から観光スポットとして高く評価されています。地域活性化の担い手（チーム飯道山）として、活躍していただける方を募集しています。いま できることを始めませんか？

申込先・問合せ先 メールか電話にて申し込み

メール: shinobinosatokuno1@gmail.com

TEL: 090-9254-7842(伴野)

(1)氏名 (2)住所 (3)電話番号 をご連絡ください。



本年度の活動状況などホームページにてご覧いただけます!





▲整備前 整備後▶

自然界に有る材料(倒木・石・間伐材)を使い、杣川夏まつりが終わってから数回杖の権現周辺の荒れた登山道の整備を行いました。75cm程の段差の底辺を平らにし、大きめの石を敷き、直径30cm余り・長さ1.5mの間伐材3本、その上に1メートルの間伐材を2本、さらに、その上に直径20cm程の間伐材を敷き固定、木階段で登りやすくしました。

他にも7か所程整備し、杖の権現前の林道2か所に溝を切り、流水をコントロールして土壌浸食を防止しました。

これからも山を愛する多くの人々の力を結集して、みんなで山の自然を保全していく飯道山にしていきたいと思えます。11月25日(火)にも、甲賀市・関係者合同会議を現地で行い、甲賀市からも整備に協力していただけます。今後も甲賀市の協力をいただきながら、登山道整備体制の充実を図っていきます。

◆ 飯道山案内ガイド養成セミナー開催

人と山と地域をつなぐ

県外観光会社から電話がありました。「12月2～5日の4日間飯道山登山を計画しているので、案内ガイドを1日、3人程度準備していただけないか」という内容でした。

定例本部会議で、歩いて登れる人を対象に案内ガイドセミナーを開催し、ガイドを養成することになりました。準備委員会を経て、11月6日(木)飯道山行者会館で、案内ガイド冊子を作成し、飯道寺元総代長中西 三夫 氏、飯道山行者講上村 喜秋 氏・関谷 和久 氏を講師にお招きし開催しました。総数27名の方にご参加いただきました。

登山当日、ガイドとして3人～5人の方が参加し、案内しながら三大寺登山口から登り、昼食後飯道神社の歴史等を説明し、宮町登山口に向かいました。

参加者からは、木食応其上人・飯道神社・坊院に思いを馳せ、楽しく語っていただき、「春に再度来ます」と嬉しい言葉を言っていただきました。



観光案内セミナー



飯道山の歴史 No.4

飯道寺笈渡し祭を終えて



江州飯道山行者講 副講元

鈴川 晴一

令和7年11月3日、今年も笈渡し祭が飯道寺にて、天台宗比叡山延暦寺特使・地元関係寺院の僧侶によって厳修され、午前中は、飯道山が曇っており雨降りでしたが、行事開始の午後には飯道寺山頂から麓に晴れ渡り絶好の秋日和で総勢50名強の行列となった。行列は、境内、飯道寺不動堂(本尊不動明王祀り)、飯道寺山遥拝碑(飯道権現)、役行者

小角(神変菩薩)堂の社前で其々「摩訶般若波羅蜜多心經」を唱え、一行は圓光寺に向かった。圓光寺で「笈」を檀家が背負い一行は飯道寺への帰路、法螺貝の音色が三大寺中に響き渡り神秘的でした。飯道寺境内では採燈大護摩供が盛大に執り行われた。

修験道行者先達の眠る飯道山飯道寺は平安時代の初期、斉衡年代の頃から修験道本山派天台聖護院流の先達をつとめてきたが、寛平7年に醍醐三宝院門跡門主の大峰山入峯の先達を兼摂するようになった。そこで、毎年5月と7月(新暦で6月と8月)には、先達が笈の中に開祖役行者の霊と山開き山閉じの鍵を納めて、大峯山から熊野への駆越し登拝をした。先達は飯道山に帰峯して、9月5日(新暦10月)に飯道権現の社前に採燈大護摩を供し帰山の報告をして、笈を次年度の当番院に引継ぐ笈渡し儀が行われた。

明治維新の神仏分離令により、飯道山の飯道寺が廃寺となり、明治25年地元の要望と比叡山延暦寺の配慮によって、本覚院を金奇山飯道寺として千年の法灯と共に笈渡し儀を継承することになった。

私達行者講は、飯道大権現と役行者神変大菩薩より御力を頂き、強い信念を培い飯道山の興隆に努め、皆様方のお力添えを得て伝統文化を永く後世に伝えていきたい。